

マザー・テレサ こんにちは

千葉茂樹 著
依光 隆 絵





Let us love others
As God loves you & me
God bless you
W. Thomas A.C.E.

EXHIBIT - 114

NO. 11 - 114





はじめに

ここにちねみおさん。

ぼくは、マザー・テレサの語をばじめると、ひと讀みでもおしやすきをつづけるわい
いくせがあまりです。それほど、マザー・テレサというかたがすばらしく、能力のある
かただといえると思ひます。

ちよとだ、今年の五月でした。この本の原稿を編輯部へ手あしたすぐあふに、ま
たインドへいく仕事がありましたので、そして、マザー・テレサが五月は三日間だけの
みあつちにいっしあると聞いて、ぼくはしめたと思ひました。

といふのほ、この機会に直接マザー・テレサに話合ひして、ぜひたしかめたいこと
があつたからです。

マザー、日本の子どもたちのために、あつたこのお話をもうすこしくわしく聞
していただくほまをかせ。

これまでなんどもたずねたことのある佛蘭西の寺院で、ぼくはマザー・テレサにお
話合ひしました。すなわ、どうでしょう。

「マギーは、なつかしいおむすびの顔で私にはお笑ひをがら、こう言ふたのです。
 「おむすびの子どものころのことば、ひとつのことばを覚えて、それならたいむすび
 ことはありますせん。それより、あなたとの顔られた時間だ、もつと話すべからいむす
 びのことばあるでしよう。」

「おむすびのころのマギー・テレスによつて、ひとつはそれだけのことばは、十二歳トウの
 ととき、神さまのために求むようお願ひしたることでした。」

「そしていま、顔られた時間によつたりが話すべからいむすびのことば、貴しい人びとのこ
 とばのことばです。」

「おむすびのころはもつとものとお話して人びとのことを考え、話しあひますです。」

「これは、マギーのことばでした。遠くは、あつたためマギー・テレスのすむらしき
 を見せつけられる顔でして、マギーからこの本を話してくださるみなさん、小さなこ
 と、こまかなことに気をとられることなく、マギー・テレスのほつとつうの心を話めと
 してほつとつうの思ひます。」

一九六〇年六月

著 書

もくじ

はじめに

1 神さまははやお母さん

雪のおまこ

香いおまこ

おまこのおまこ

小さいアデキスの夢

おまこ

コレットと神さまのおまこ

おまこ

神さまのおまこ



1 平和をはこぶお母さん



美しい人は、

とてもすばらしい人びとです。

あの人たちは、

けっして、いばつたり、

人を怒ましたりしません。

美しい人は、

感謝する心をもち、

やさしい心をもっています。

マザー・テレサの言葉

雪のオスロで

美しい雪景色がひろがっています。

ここ北ヨーロッパの冬にはめずらしく、雪が降らなくなっていました。

それは、一九七九年(昭和五十四年)の十二月八日のことです。

ノルウェーの首都のオスロの空には、ひとりの年とった結婚夫婦が、白いサリール(ノルウェーの女性の名を冠した)の上で、舌づけたキスをまともに、そまつな服装でうろたうという様子が、おぼろげに映りました。

その人の真名は、マヂー・テレス。

彼等が人びとからしたしみをこめて、マヂー(お母さん)とよばれている結婚夫婦で、そのとき六十九歳でした。結婚生活というのは、あとでくわしく書こうと思いますが、キリストの教えにしたがって一生を神さまにまかされて生きる女性のことです。

ところで、そのマヂー・テレスは七十歳くらいおばあさんにはとても見えないうほど元気です。

ずたずたの体も、いちばん早く老衰の出口から逃れてきました。

なぜなら、荷物はふつうの人よりもがってトランカもなく、そまつな手ぶらぶらとひとつしかないので、運搬(外貨に換えたりするとき、荷物を運ばれます)の手間もいりないからです。

そして、このずたずたのおばあさんは、顔むかしの人びとに手を合わせて会話をしながら、ここにこの國であいつづかかすのです。

これは、このマヂー・テレスこそ、ノルウェーのなかからオスロまで来たノールベ(ノルウェーのオスロ)とよばれる科学生でダイオマイトの探検者、アケラトマヂー・ノールベ(オスロ)とよばれる探検者である(探検、化学、探検者および探検、化学、探検)本報にわたって、人間のしあわせにつくった人びとに感謝をおくられています(この探検者です)。

それなのに、舌づけたキスに手をつきといえ、ひどく美しいかっこよさをした(こと)と平らう。みなさん、きつとそう思うにちがいないと思います。

でも、このおばあさん(探検者)こそ、マヂー・テレスという人(探検者)にいらばかまわしいのだから、いえそうです。

ノールベ(探検者)の探検は、十二月十四日オスロ大学の礼拝堂でひらかれました。



その式場に、ノルウェー国王オラフ五世、
ハワード・ヘンリー・ヘンリー、この国を代表する千
人あまりの人びとが、マゼー・テレサの受賞を
お祝いするために参加したのです。

式場の十時、ノールウェー首相のテネス
高貴は、壇上からよここびのことばを述べまし
た。

「おたくしの尊敬するマゼー・テレサ、あなた
は長いあいだ貧しくなやめる人びとに限りない
援助の手をさしだすのでこられました。おたくし
たちは、その賞状に対して今年も半額賞をおく
り、あなたをほめたまえることにしました。そ
れは、おたくしたちにとっても、たいへんに光
榮なことです。」

あいさつにのびいて、マゼー・テレサは、ノ

ール首相賞の金メダルと賞状、それに賞金がわたされました。

賞の高いチヤス・ヘンリーは、小柄なマゼー・テレサのために背をかかえるようにして、そのひ
とつひとつをさしだします。そのたびごとに参加者たちからは、ほがらかな歓声と大きな拍手
がわきおこりました。

うれしそうなるマゼー・テレサ、その涙のひもとみには、涙がにじんできているようです。そして、
つぎに受賞者としてのスピーチがほじまりました。

マゼー・テレサは、感激のあまりよるまがちな声で、でもはっきりとつぎのようにいふたの
です。

「おたくしは、こんなにすばらしい賞をお受けできるような者ではありません。でも、世界中
の貧しい人びとに代わってこの賞をいただくことにしました。神さまも、そのことをきくとお
よこさばだと思えます。」

本たまた、おれもよるまの拍手がつかましました。

「世界中の貧しい人びとに代わって——マゼー・テレサのことばは、まっすぐその国の
ニュース電波にのって世界中の国々に伝わり、ラジオ、テレビでいっせいに放送されたことは、
みなさんご存知のうちにあります。」

マザー・テレサがノーベル平和賞を受けたことは、シムライマター博士（マツケン）にも伝えられた。博士は、喜慶交として慶祝していましたが、三十歳で人類への貢献の軌跡を懐念して病者になされたマツケンにわたって病人の医療活動に生活がもたらした人、一九五三年の「平和賞を受賞した」の功績に際して、もっともよき喜びをもってむかえられ、おれひとり反対しなかつたといわれています。

それは、いったいなぜでしょうか。

では、それに答えるために、ぼくが訪会したマザー・テレサのことをその協力者の語っているように書いてみようと思えます。

暑いカルカッタで

ぼくは、晩飯をつくる人間です。脚本を書いたり、カンパマンといっしょにいろいろの国や地域を冒険にして、晩飯をつくるのが仕事です。

そして、マザー・テレサがノーベル平和賞を受賞するもろど二年まえ、インドのカルカッタ

において、晩飯をしていました。

もちろん、カルカッタの町で、暑い人びとを助けているマザー・テレサの記録映画をつくるといふのです。だから、毎日のようにマザー・テレサに会うたり、同じ事は活動をしている。映画

製作男子の報道士たちの働きもカルカッタで進みかけていました。

その活動は、とてもつらく、たいへんでした。

なにがたいへんかという点、カルカッタという町は、とても暑く、そのうえ貧しい人や病気の人があふれていて、どこを見ても心が痛くなるようなことが、たくさんあります。その点です。

みなさん、世界地図をひらいて、インドのカルカッタというところを見つけてください。

この町は、インドのなかでも最悪のニューデリー、西のボンベイと比べると、もっとも大きな悪徳都市です。でも、インドの西に面しているために、空気がとてもよくなっています。

十二月から二月までが最も過ごしやすいかわいた季節だといわれるのに、暑のあいだは毎日車の真夏と同じように、うだるような暑さがつづきます。気温計は、毎日三十五度をこしてはいません。

そのうえ、カルカッタの町には、人びとが地面からわいて出たと思われるほどあふれています。右側の地図では、人口が約一千万、そのうち、家もなく道は土や舗のたもと、駅の広場